

基議厚産第142号  
令和5年8月30日

基山町議会  
議長 重松 一徳 様

厚生産業常任委員会  
委員長 大久保 由美子

### 所管事務調査報告書

本委員会は、所管事務の調査を終了したので、その結果を報告します。

#### 記

#### 1 調査事項並びに調査期日

- (1) きやまコミュニティバスの運営について 令和5年7月19日  
(概要説明及び現地視察)

#### 2 調査結果

きやまコミュニティバスは、平成12年4月の民間の路線バス廃止に伴い、同年10月に循環バス運行が始まり、平成26年7月から公共交通として現在の形である1号車・2号車の巡回によるコミュニティバスの本格運行が継続されている。今回、きやまコミュニティバスの乗車体験を行い、事業内容について調査を行った。

乗車体験では、基山駅バス停を出発地点とし、白坂・玉虫線からけやき台2丁目へと時計回りで巡回する1号車けやき台線に乗車した。運行中、けやき台で町民3人が乗車され、その方々に乗車理由を尋ねることができた。男性1人は運転免許証自主返納による証明書を提示して無料で病院へ、他の女性2人は毎週の買い物にバスを利用されており、運賃は回数券で支払い、きのくにカードのポイントも取得されていた。それぞれ町の補助事業が有効に活用されていることが分かった。

乗車体験実施後、運行経路や時刻の見直しはどのように取り決めているのかと質したところ、利用者の要望や意見を反映した運行経路や時刻の見直し、バ

バス停の新設、利用者への補助制度創設など、数多くの事業改善を毎年行ってきた。今後も町民の要望に対応した見直しを随時行っていきたいとの説明を受けた。

次に、各バス停での高齢者等への配慮として暑さ対策ができないかと質したところ、担当職員が乗車して調査した際にも同様の要望があり、基山駅バス停では乗換えバスへの連絡調整時間までバスの中で待てるようにした。他の主要なバス停については、今後、道路管理者との協議や他市町のバス停の環境を参考に検討したいとの説明を受けた。

また、バス運行回数は1時間に1本程度となっている。利用する際、身近なバス停での時刻表示は確認できるが、目的地からの帰り時刻が分かりづらいので、バス停の時刻表示に工夫ができないかと質したところ、きやまコミバス便利帳の「マイダイヤ」欄に、利用者の目的に合わせた時刻表が作成できるように支援を行っている。また、バス停での表示は、利用者が多い主要な箇所対策ができないか検討したいとの説明を受けた。

最後に、デマンド型交通計画について、これまでのコミュニティバスの利便性を高めるため、中山間地域にデマンド型交通を導入してはどうかと質したところ、現在2号車が巡回する地域に、乗降時刻や経路など柔軟に対応できる乗り合いのデマンド型交通の導入に向けて、国の補助事業を活用した実証実験を担当課内で検討している。既に実施している他市町を参考に行いたいとの説明を受けた。

当委員会としては、今後も町民の利便性向上に寄与したコミュニティバス運営に努めることと、中山間地域の高齢者をはじめ、町民の移動手段として柔軟に対応できるデマンド型交通の導入に向けた実証実験を早急に実施するように提案した。